

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0171200207		
法人名	株式会社 恵み野介護サービス		
事業所名	株式会社 恵み野介護サービス グループホーム だんらん こがね		
所在地	恵庭市黄金南4丁目13番地1		
自己評価作成日	平成30年10月1日	評価結果市町村受理日	平成30年11月16日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.hlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&JigyosyoCd=0171200207-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成30年10月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

新興住宅の中にあるグループホームで、近隣には憩いの場や自然にも恵まれた環境です。明るく広々とした住居環境の中、行事活動に力を入れご家族様にも参加していただき利用者様とのふれあいにも力をいれています。スタッフ全員が明るく1人1人の暮らしを支えながら安心、安全な生活ができるよう工夫・配慮しながら支援をしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム だんらん こがね」は、自然環境に恵まれた静かな住宅地に立地している。建物内は明るく開放感のある造りで、壁には季節に応じた立体的な装飾が施されている。介護度が高く日常的な外出は減ってきているが、地域のふれあいセンターで近隣住民と交流したり、登下校の子供達と会話を交わしている。法人合同で開催する夏祭りに地域住民を招待してボランティアの余興を楽しんだり、節分には地元の神社から鬼や獅子舞が訪れて利用者と触れ合うなど外部の方と交流する機会を積極的に取り入れている。市役所から他施設の事例対応についての相談を受けるなど、役所とも協力関係を築きながら連携を深めている。介護計画の見直しは担当職員の評価を基にモニタリングを行い、全職員が携わりながら各利用者の状況に応じた適切な計画を作成している。全体会議で具体的な対応について検討し、職員間で統一したケアを行っている。管理者は、各職員の意見や提案を聞き取りながらケアや運営に反映させて働きやすい職場環境の整備に努めており、職員の定着率も高い。災害に備えて食卓椅子の背もたれに職員手作りの防災頭巾も備えている。家族の来訪時に面談しながら意見や要望に耳を傾けて細やかに対応し、家庭的な温もりのあるケアを行っているグループホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所、スタッフ理念の両方を記載したカードをスタッフ全員が携帯することで確認を行い、共有を図っている。	地域密着型サービスを意識した法人共通の理念と事業所独自のスタッフ理念を開設時の職員と共に作成している。管理者は、会議の中で理念について話をしながら意識づけをしているが、全職員で振り返る機会が少なく理解にばらつきが見られる。	全職員で更に理念を共有できるように、年数回は意識的に理念について話し合う機会を持つよう期待したい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭りを開催し、地域の方に来て頂いたり散歩やふれあいセンターに行き、地域の方との交流をもてるよう努めている。	登下校の小学生や事業所前の自動販売機に購入に来た近隣住民と日常的に会話をする機会がある。傾聴ボランティアの他、事業所の行事開催時に余興やマンドリン演奏、車椅子ダンスなどのボランティアが訪れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会に加入し、地域の方がいつでも相談に来られるようにしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度、運営推進会議を開催し、日々の様子や毎月の行事等を報告し、サービス向上のための話し合いを行い、意見要望を取り入れ対応を行っている。	テーマを記載した会議案内と議事録を全家族に送付して、震災後のホーム状況や熱中症対策、避難訓練などをテーマに開催している。参加できる家族が固定化しているため、参加できない家族の意見も事前に聞き取り会議に活かしたいと考えている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に市の担当者の方にも参加して頂き、日頃より分からない事などがあればすぐに連絡を行い協力関係を築いている。	管理者は、事故報告や補助金の手続きなどで市役所を訪れている。保護課の職員と情報交換しながら相談することもある。市役所から、他施設の事例に対する具体的な対応についての相談を受けることもある。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアをスタッフ全員で取り組み、やむを得ずセンサーや鈴を設置する場合は、家族の承諾書を頂いている。玄関は防犯のため施錠しており、施錠についての張り紙をしている。	「身体拘束等適正化のための指針」を新たに作成し、禁止の対象となる具体的な行為について確認したり外部研修後に報告研修を実施している。安全面に配慮し、市役所に確認して日中も玄関を施錠しているが、鍵は中から自由に開錠できる造りになっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関する研修会に参加しており、資料については閲覧できるようにしている。また拘束委員を設け防止に努めている。		

グループホーム だんらん こがね

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市町村や恵庭市グループホームネットワークを通じて勉強会を開催していただき参加している。成年後見制度については、勉強会やガイドブックを閲覧できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、利用者やご家族の不安や疑問点などを尋ね、十分説明し納得・理解を得られてから契約を行うようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者が気軽に話せるよう普段の会話や関わりを設けたり、ご家族とは来訪時に面談を行い、すみやかに対応できるよう心がけ、意見や要望等を聞き記録に残している。	家族が来訪した時は個別に話をする機会を設け、普段の生活状況を伝えながら意見や要望を聞き取り個別に記録している。連絡事項は「ご家族への連絡表」に記入して全職員で共有している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議や連絡ノートを使用しながら、個別に意見交換出来る様に場を設け反映している。	全体会議に参加できない職員の意見を事前に聞き取り、各担当者から利用者の状況報告を受けて具体的なケアについて検討して全職員で統一した対応を行っている。管理者は各職員と個人面談を年1回実施している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の努力や実績、勤務状況を把握し職場環境・条件の整備に努めている。介護の給与水準が全国的に低い事もあり、向上心を持って働くまでには至らない。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所の外部で開催されている研修に参加しながら、会議等で研修報告を行っている。研修で得た知識をスタッフ全員で共有するようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	恵庭市グループホームネットワークを通じて勉強会や交流会に参加をするようにしている。他の施設の方と交流を深め意見交換なども行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居開始時には利用者と多く関わり傾聴することで安心感をもっていただき、会話の中で情報を得ようとしている。また、アセスメントに基づき今までの状況と変わらぬよう配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者にとってほしいか等家族の思いを聞き、家族が不安にならないよう信頼関係を築き丁寧に対応するよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	情報交換を密にしてその時に必要な支援かを見極め、話し合い、ケアプランに反映し実践するように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お手伝い等負担を感じない程度に活躍の場を作り、冗談を言いながら笑ったりして日常生活を共に過ごせるように努めている。体操の時間を設け、1日1回はリビングに揃い、一緒に行くことにしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との関係を大切にし、衣替えや物品購入等共に考え、より生活しやすいよう協力し合っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力のもとこれまで大切にしてきた人や場所との関係を途切れないように努め、2ヶ月に1度の理容、1ヶ月1度の生け花等、馴染みのある方の協力を得ている。	近所に住んでいた方や親戚が来訪して居室などで話をしている。散歩で近隣住民と顔なじみになり挨拶を交わしている。職員や家族と買い物に出かけることもある。家族とお墓参りに行ったり自宅を見に帰る方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者それぞれの個性を尊重しながら、座る位置等にも気を配り、争いや孤立者が出ないように気をつけ、状況によってはスタッフが中に入り一緒に関わり合いながら支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族より連絡、相談等があれば支援する様に努めながら対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活においてできるだけたくさんの会話を持ち、本人の思いや意向を引き出している。困難な場合は何げない普段の表情や仕草等を見逃さないように努めている。	利用開始時にセンター方式シートで情報を収集し、趣味や嗜好などの変化も随時追記して毎年書類を更新している。会話や表情、生活歴などの書類を確認しながら思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時には本人、家族との面談等において情報を収集し、意向や希望を確認するとともにこれまでのサービス利用経過等の把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活パターンや排泄リズム、食事習慣等できること、できないことを確認し、日常生活記録、スタッフ会議、申し送り、日々の話し合いの中で把握できるように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の話し合いやスタッフ会議において新たな課題等の検討や意見交換を行っている。また家族の面会時等には本人の様子を伝え、家族の意見を反映して介護計画を作成し、同意を得ている。	利用者担当職員の具体的な介護内容に沿った評価を基に全職員でモニタリングを実施し、計画作成担当者が3か月ごとに介護計画を作成している。介護計画を意識しながら日々記録を行い、評価や課題分析票の記録に活かしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	計画書に沿って日常生活の記録を行っている。ケアの工夫等については、個人連絡事項としてスタッフ間で共有し、実践できるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家庭的な雰囲気、季節感などを大切にし、その時々に応じた行事の実施や他事業所の協力を得ながら柔軟なサービスの提供を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	その利用者に合わせた地域資源を活用し、豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問介護を利用しやかかりつけ医との連絡を密にし、適切な医療を受けられる様支援している。	利用者の状況に応じてかかりつけ医や緩和ケアの往診を受けている方もいる。職員が受診支援を行い、主治医に本人の状況を伝えながら適切な医療を受けられるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護を週1回利用し、日常生活の情報や気づきを伝え相談し、利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入院時には安心して治療を受けられるように、またできるだけ早期に退院できるように病院関係者との関係作りに努め、情報交換をや相談を行うように努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期に向けたあり方について早期に家族と話し合いを行い、ホームで可能な支援の説明や主治医へ相談を行い、方針の共有を行っている。	利用開始時に事業所として可能な対応について説明している。受診が困難になった時や主治医の判断の下に家族と方針について話し合い、希望に応じて「終末期生活支援に関する覚書」を作成して看取りに取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	個別に講習等に参加し、講習内容、資料等をスタッフ会議で情報共有し、実践の向上に努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防署、市職員、包括支援センター、町内会長、民生委員の方に協力していただき、昼夜を想定した避難訓練を実施している。	今年度は、恵庭グループホームネットワーク合同の避難訓練事業所となり、他事業所職員と共に訓練を実施している。事業所内の危険箇所やケア別の対応についても確認している。食品の備蓄も更に充実させていきたいと考えている。	災害時の防寒対策として、暖房器具などの備品も充実するよう期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し、利用者のプライド等を傷つけないように配慮した対応を行うように日々努めている。	利用者の呼びかけは「さん」づけを基本とし、希望があればより親しみを込めた呼びかけを行うこともある。市内の接遇研修に職員が参加している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者一人一人に合わせた声かけや自ら決定し、行動できるように働きかけを行うよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活ペースに合わせ、その時の体調や要望に応じて買い物、散歩等を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみができるように声掛けや支援を行っている。		

グループホーム だんらん こがね

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの身体状況やその時の気分に合わせ、コミュニケーションをとりながら準備、食事、片付けをスタッフと一緒にやっている。	食材会社からメニューと食材が提供され、誕生日には利用者の好きなちらし寿司でお祝いしている。敬老会には出前を取ったり、外食に行っている。食器拭きを手伝う利用者もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの体調、摂取量を把握し、栄養や水分が確保できるようにその利用者の状態に合わせた支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施。個々に応じた支援、声かけ、見守りを行っている。義歯使用者は就寝時に入れ歯洗浄剤にて清潔にしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握するため排泄表を使用している。排泄間隔があいている時には声かけを行い、トイレでの排泄ができるように支援している。	全員の排泄状況を「水分排泄表」に記録し、パターンを把握している。誘導時は羞恥心に配慮し、他の方に分からないように誘導している。可能な限りトイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々に合わせた食事の工夫、運動、水分補給等を行っている。時には便秘薬を使用し、便秘予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴前には体温、血圧を測り、体調の確認を行いながら個々に合った声かけやタイミング、その時の気分に配慮し、週2回入浴できるよう支援している。	午前、午後に各利用者が週2回程度入浴している。入浴を拒む場合は時間や日にちをずらしたり、声かけの工夫をしている。希望に応じて同性介助とし、入浴剤の使用や一人ずつのお湯を入れ替えて気持ちよく入浴できるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の体調を考え、居室で休む時間を大切にしている。就寝時にはゆっくり眠れるよう、適切な寝具、寝巻で対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	いつでも確認できるように薬の内容を個々のファイルに保管している。服薬時には声かけや見守り、介助を行い、症状に変化があった場合は随時医師への確認、相談を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	散歩やお手伝い、DVD鑑賞等個々に応じた気分転換が図れるよう支援している。また月1回は入居者が楽しめるような行事を取り入れている。		

グループホーム だんらん こがね

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	体調や天気の良い時には買い物や散歩の声掛けを行い、希望に沿って外出が出来る様支援している。	日常的な外出は減ってきているが、近くの薬局に職員と一緒に رفتり、周辺での散歩を行い、車いすの方も一緒に出かけている。畑の収穫は利用者も参加している。年間行事では、花見や紅葉狩り、道の駅見物などに出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の能力に合わせて管理や支払いができるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じ、電話を掛けたり、手紙を出せるよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天窓のある広いリビングの空間を生かし、季節に合わせた飾りを利用者と一緒に作成、掲示している。また換気システムを使い、常に清潔感を保てるよう注意している。	共用空間は各方角に窓があり、中心部にも吹き抜けの上部から光が差し込んでいる。壁に手作りのカレンダーや季節の装飾、「こがね新聞」、利用者の写真などを飾り、賑やかである。ソファのスペースを3か所設け、利用者は好きな場所で寛ぐことができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各利用者の食席のほかリビング窓際や談話コーナーにソファ一席を設置し、自由に過ごしていただけるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室の家具や装飾品はご家族に相談し、馴染みのものを持参していただき、居心地よく生活できるようにしている。	居室入口や室内に花の飾りを飾っている。室内は広めのクローゼットがあり、利用者がベッドやタンス、テレビなど馴染みの物を持ち込んでいる。壁には、家族の写真や習字作品、カレンダーなどを自由に飾り、その人らしい部屋となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	リビング、浴室、トイレ等動線を意識した手すりを設置し、転倒の危険が高い利用者にはご家族と相談、同意の上アラームを設置し、安全に生活できるよう支援している。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム だんらん こがね

作成日：平成 30年 11月 15日

市町村受理日：平成 30年 11月 16日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	本社理念、だんらん理念、スタッフ理念を携帯する事は常時出来ているが、全員が理念を共有し話し合う場所、振り返り、理解力にばらつきがある。	職員全員が理念に理解をもち、振り返りの時間を設ける様にする。	目の前の業務に密着したものになるように、スタッフ会議にて読み上げを実践する。	1年間
2	35	災害時での、食品、備品等の備蓄を充実し、電力の供給が停止の場合防寒対策に関しての準備が必要である。	災害時での電力には、発電機購入はしているが、暖房器具の購入を検討する。	ホーム内一部に避難し、暖房器具としてジェットファンヒーターの購入予定。	1年間
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。